

「北上さくら染め」誕生

北上の呉服店主らが創作

和服を彩る 淡い色合い

全国的にも珍しいサクラを染料に使った呉服が完成、二十九日に北上市本石町の日本現代詩歌文学館で公開された。市内の呉服店有志らが企画、創作していたもので、名勝・展勝地のサクラを使った「こゝから「北上さくら染め」と名付けた。今後はスカートなどにも応用し、地域特産を目標とする。



完成した「北上さくら染め」の着物。新しい染織文化の確立に期待が高まっている

応用広げ特産めざす

呉服業界の研究機関・きのもの大学（本校京都市、中塚一雄学長）の協力を得て完成させた。同大学は、各地で自生する植物を使った染織品を創作、既に「佐賀銀杏（いちじょう）染め」など十二カ所を手掛けている。同市の呉服店「和の衣さとう」の佐藤敏孝社長らも数年前から創作に乗り出し、昨年十一月に中塚学長の協力でサクラの皮などを素材に研究を始めた。

薬草染めで国内第一人者とされる伝統工芸師・椎名淳夫氏にサクラを使った「染め」を依頼。展勝地桜並木の絵が入った訪問着三着と色無地二着などが今月完成した。淡い色合いが特徴。媒染剤で色とりどりの着物になるが、サクラだけの場合は薄茶色がグレー色に染まるという。

中塚学長は「サクラは意外にも使われてこなかった。国内でも初めてと言っていい試みだと思う」と話している。

佐藤社長は「お土産品として買えるよう、スカートなどにも応用したい」と意欲的。同市立花の団体職員伊藤由希子さん（二七）は「美しいイメージが伝わってくる」と関心を示していた。

「北上さくら染め」の着物は同文学館で三十一日も、午前十時から午後六時まで公開する。問い合わせは「和の衣さとう」（019-764-0843）まで。